

## 2013年度第2回日本学連幹事会 配布資料

開催日 2014年(平成26年)1月18日(土)  
 会場 立川市西砂学習館 第一教室(東京都立川市)

### 【配布資料一覧】(敬称略)

	資料タイトル	関連議題 (番号)	備考
配布資料1	議案書 JOA との関係について	2	文責: 幹事長 山本淳史
配布資料2	JOA・UOFJ 連絡協議会	2	文責: 幹事長 山本淳史
配布資料3	2013年度会計中間報告	3	一部修正済み 文責: 会計 山田陽子
配布資料4	日本学生オリエンテーリング連盟個人情報保護理念	4	今回幹事会時点での案 作成: 事務局長 山田晋太郎
配布資料5	2013年度 春インカレについてのご報告(その2)	5	2013年度春インカレ実行委員会作成資料
配布資料6	「インカレスプリント実験大会および今後の展望について」資料	7	報告: 副会長 山川克則
配布資料7	「地図会計について」資料	8	報告: 副会長・YMOE社 山川克則
配布資料8	日本学生オリエンテーリング連盟の地図の運用に関する規約	8	文責: 地図会計担当理事 齋藤翔太
配布資料9	「地図会計について」様式	8	作成: 地図会計担当理事 齋藤翔太
配布資料10	日本学生オリエンテーリング連盟におけるテレインと地図の利用に関する規則	9	今回幹事会時点での案 作成: 副幹事長 新谷国隆
配布資料11	広報紙「いぶき」について	10	文責: 広報部長 高橋秀明
配布資料12	議案書 東北大の交換留学生について(報告のみ)	12	文責: 幹事長 山本淳史
配布資料13	賛助会員について	16	文責: 普及部長 杉村俊輔

## 議案書\_JOA との関係について

2014/1/18 平成25年度第3回幹事会

幹事長：山本淳史

### 【前回までの流れ】

秋の総会で日本学連がJOAの正加盟員になろうとしていることを説明し、個人情報の取り扱いについての方針を説明し、同意を得た。

#### ・個人情報の取り扱いについての方針

JOAは日本学連加盟員を追加費用無しで競技者登録する。そのため、日本学連はJOAに競技者登録に必要な「氏名、ふりがな、性別、生年月日、郵便番号、住所（部屋番号まですべて）、電話番号、（もしあれば）故郷登録の都道府県、（もし可能なら）メールアドレス、現在の競技者登録の有無」の情報を提供する。これには各加盟員の同意が必要。具体的には、JOAと日本学連の個人情報保護理念を各加盟員に参照してもらい、その上で、加盟登録申請のフォーマットに「JOAに上記個人情報を提供して良い」というチェックボックスを設ける。日本学連の個人情報保護理念は現在作成中。春の総会で承認を取る予定。

どうしても同意を得られない加盟員についても、「氏名、ふりがな、生年月日、都道府県、（もしあれば）故郷登録の都道府県、現在の競技者登録の有無」（つまり、電話番号と住所以外）はJOAに提供する。そのような加盟員にJOAから連絡を取りたい場合は、日本学連事務局を通して連絡する。また、これらの情報について、JOAはその競技者の登録する都道府県協会には提供する。

日本学連の個人情報保護理念については、JOAのものを参考に、山田事務局長が作成してくれている。

### 【前回からの進捗】

#### ・競技者登録の流れ

日本学連の加盟登録は6月末までで、JOAの前年度の競技者登録の効果が切れるのも6月末。競技者登録は6月末までに申請すれば、空白が空くことなく7月から競技者登録が続けられる。

ということで、今まで通り6月末までに日本学連の事務局に各地区学連から登録申請を上げてもらい、そのデータを6月のうちに日本学連事務局からJOA事務局に提出する。これをもって競技者登録申請とする。それを受けたJOA事務局は競技者登録番号を各自に割り振り、その番号を日本学連事務局に伝える。日本学連はそれを各加盟員に公開する。この一連の作業は7月中旬か下旬ごろまでに終わる。年度途中の加盟登録についても、同様の手順で申請する。

・競技者登録番号の振り方

競技者登録番号は3桁—2桁—3桁という並びになっている。これを abc-de-fgh とすると、a は性別(1 が男性、2 が女性)、bc が生まれた年の西暦の下2桁、de が都道府県番号、fgh は都道府県が各々振る識別番号。例えば僕の場合は男性、1990 年生まれ、東京なので、190-13-609 となる。学連登録者に関しては、この都道府県番号の2桁に50を足した番号を使うことで区別する予定。

・JOA ニュースについて

JOA から各競技者に JOA ニュースを郵送しているが、これを各地区学連宛にする。地区学連は各大学に配布する。これによって JOA の郵送費を大幅に削減できる。

・理事、委員会について

日本学連から1人ないし2人程度、JOA の理事を出さなければいけない。任期は2年。この人数は一度決めたらずっと維持しなければいけない。これについては2014年5月のJOA総会で承認するので、今年度中に日本学連から推薦するという形。

先日 JOA 理事の藤井さんから受けたメールによると、「JOA で話し合ったとき、日本学連からの理事は2人、1人が日本学連の理事でもう1人は幹事長がいいのでは、という話になったが、あくまでJOAの中で話し合ったことなので日本学連の方で決めてくれていい。JOA 理事の任期は2年だが、日本学連の幹事長は特別に1年で交代しても大丈夫だろうという話だった。JOA の総会は例年5~6月なので、幹事長が変わってから JOA 総会で承認されるまでの間はオブザーバーとして参加することになるだろう。」とのこと。

委員会については、普及委員会、強化委員会、スキーO委員会には委員を出してほしい。これは動いてくれば、必ずしも5月までに承認とか取らなくても良い。とのこと。これについては、そう期待されているが、理事と違って制度上絶対に出さなければいけないというほどのものではない。

【今回話し合いたいこと】

・JOA 理事、委員会をどうするか。

→理事は何人出すか。

→日本学連の理事を JOA 理事に出すとしたら新しく JOA 担当理事を作るか、今の理事に兼ねてもらうか。

→幹事長を JOA 理事に出すか。

→委員会に出す人をどうするか。

JOA・UOFJ連絡協議会

2013年11月22日 17:00～18:00@JOA事務局

議事録作成：山本淳史

参加者

JOA：藤井さん

UOFJ：山本、山田(晋)、山田(陽)

**【要旨】**

- ・番号の振り方について(登録時のフロー)

学連から6月末日までに、JOAに所属都道府県も含む学生の情報を伝える。JOAはそれを持って登録とする。JOAがその情報を基に競技者登録番号を振る。この番号は、例えば都道府県番号に50を足すなどして、学連であることがわかるようにする。振り終わったらJOAが学連に番号の情報を伝え、学連から各学生加盟員に競技者登録番号が伝えられる。競技者登録番号と学連の加盟員番号の照合などが必要になった場合に対応できるように、学連は整理しておく。JOAは、この学生競技者情報は、その競技者の登録する都道府県の都道府県協会まで、その個人情報を伝える(全都道府県協会に対して公開されることはない)。

- ・JOAから競技者個人に連絡をとりたいとき、もしその人が個人情報を提供したくない人だったら、JOAは学連を通して連絡する。JOAニュースは、地区学連に人数分+ $\alpha$ くらいを送る。

- ・学連の個人情報保護理念のJOAの記述については、「JOAの業務の円滑な遂行のため」のようにして、この理念のなかで具体的に情報の提供範囲を定めたりしない方が良いか。以降は学連で詰めておく。

- ・理事については、JOAは規定を変える。学連は5月のJOA理事会のときには1人ないし2人程度、理事になる人を決めてなければいけない。学連から出す理事の人数は、一度決めたら毎回同じ人数が必要なので経常的に出せる人数を考えてほしい。

- ・委員会については、今各委員長に確認中ではあるが、普及委員会、強化委員会、スキーO委員会には委員を出してほしい。これは動いてくれれば、必ずしも5月までに承認とか取らなくても良い。

前回の確認

氏名とかの情報の提供について確認。

藤井：問題になるのは情報のやり取りになると思う。JOAや都道府県協会に返すか

藤井：今学連は学連で加盟登録番号つけてる。JOAの競技者登録番号は3桁2桁2桁ってなあって、性別、生まれた西暦の下2桁、都道府県番号(2桁)、都道府県が勝手に振る番号(3桁)。最後の3桁は都道府県によって振り方が違う。年度ごとに1からにするか完全に通し番号にするか。

藤井：将来的には学連の番号もそうするか、対応させるか。

山田(晋)：学連は入学年度が大事になるので、その情報は必要。

藤井：留年した場合どうするの？登録はできるの？

山田(晋)：登録はそのままできる。インカレにも出られる。

藤井：5年目になったら？

山田(晋)：できたと思う。多分加盟はできるけど、選手権には出られない。(山本注：後で調べたところ、その通りでした)

藤井：じゃあ入学から5年経っても学連から番号が上がってくるって可能性はあるのね。

藤井：学連側で番号を付けられるかどうか。普通につけると都道府県協会がつけたのとかぶっちゃうから、例えば学連からののは都道府県番号のところに50をたした数にすればかぶらない。とりあえずこれだけもらえれば番号はふれる。できれば住所もほしいが、それは人によってはもらえないということなので。

藤井：もし学連の方で番号をふれないとすれば、どこに所属しているかということは必要になってくる。

山田(晋)：基本的には別々でつける？

藤井：学連の番号をJOAの番号に統一はできないだろうし。拡張する手もあることはある。

山田(晋)：それはさすがにめんどろ。

藤井：学連はどういう番号を振ってる？

やましん：入学年度の西暦の下1桁、大学コード3桁、通し番号2桁。

藤井：それだけ多くの情報を拡張してくっつけるのは大変だね。

山本：学連の加盟登録締め切りが6月末で、前年度のJOAの競技者登録の効力も6月末までなので、学連が番号つけてJOAに報告するとなると番号を付ける時間がない。

藤井：JOAとしては情報をもらった時点で受付になる。すぐに番号の割り振りはできないにしても、JOAが番号を付けるとしたら、7月になってから番号が割り振られる。

山本：JOAが番号を振る場合の問題ってなにかありますか？

藤井：人数が増える、のはまあ予想されてた。都道府県をちゃんと指定したうえでやりたいうことかな。本来なら住所とか全部ほしいけど。

山本：情報を提供するのが嫌だって人も、都道府県までは提供するつもり。

藤井：都道府県までは確実にJOAに入ってくる。情報がない人に関しては学連を通して連絡することになる。JOAニュースは地区学連宛てにちょっと多めに渡すのでいいかな。

山本：じゃあ JOA に都道府県の情報を含めて全部渡して、、、。

藤井：JOA に情報全部提供してもらって JOA が番号振って学連と都道府県協会にその情報を流します。基本的な流れに関してはそれでいいかな。

藤井：あとは加盟員の情報を都道府県に流せるかどうか。

山田(晋)：問題は？

藤井：加盟申請で情報を聞くとときにそれがどこまで使われるかを明記するか。

山本：都道府県協会も連絡とりたいですよ？最初から都道府県協会にも情報行くってことで言ってたし、それでいいんじゃないですかね？

藤井：全都道府県協会にはいかないけど、所属する都道府県にはいく。

山田(晋)：それに関して雛形みたいな作ったんですけど(個人情報保護理念案を出す)。

山田(晋)：基本的には JOA のと変わらないんですが、こんな感じにして、これに則って情報を扱いますよって感じにしようかと。まだ全然詰め切れてないですが。

藤井：4.のところだよな。「必要なところに提供します。」実際には自分の登録しようとしていいる都道府県協会に情報がいきますよと。

山田(晋)：3.の(1)~(3)のところに足りてないことがある。JOA のことを加えなければいけない。

藤井：4.に JOA のことが書いてあるから、3.のなかに 4.を埋め込む。

山本：情報の提供範囲の自由を認める or 認めないっていうのは？

山田(晋)：JOA の期待する情報の使用範囲っていうのは具体的にはなんでしたっけ？

藤井：都道府県協会と学生のつながり。そのなかで一番大きいのは全日本リレーだろう。

例えばこれを 3.の(4)にしておいて、「本連盟が加盟する JOA の事業の円滑な遂行のため」みたいにする。で、実際には JOA 側で個人情報の考えがあるので、むやみやたらに出すわけではない。JOA 側でやりますよ。JOA でやるのは事業の遂行に必要な範囲ですよと。

山田(晋)：なるほど。ありがとうございます。

山本：個人情報の取得目的文例とは？

山田(晋)：これは多分あまり見ていない。そのまま消していいかなと思ってたもの。

藤井：これは申込書にこういうのを書いたらいい。JOA の主催大会の要項に書くもの。競技者登録の申請書にこれを書いておくと。

山田(晋)：基本的にはいらないと思っている。

藤井：文例なので書かなくてもいいと思う。

山田(晋)：これに従って都道府県協会まで情報をおろしていけばいいんじゃないかな。

山本・藤井：いいと思う。

藤井：学連の登録番号と JOA の登録番号のつきあわせは学連で管理してくれれば。

山本：6月末までに学連が JOA に情報を渡して、7月中頃か終わり頃に番号が振られて返ってくるので、その番号と学連の登録番号と個人の対応は学連が管理するってことで。

藤井：あと各学生に番号を伝えるのは学連。

藤井：今我々も都道府県協会が振った番号を都道府県協会からもらっている。

藤井：その方向で進めていきましょう。あとは JOA としては今度の全日本リレーの前の日に各会員との意見交換会をする予定。長期的なことを話すイメージ。あとは業務執行理事の連絡会のなかでは JOA の競技者登録の費用を上げようとしている。学連より安いし。

山田(晋)：学連は地区学連とあわせて 5000 円くらい

藤井：JOA は 2000 円。学生は 1000 円かな。今 JOA に一番お金払ってるのは指導員。本当は指導員は普及のために動いてくれてるので、本来あんまりお金取りたくはない。一般の登録費を上げて指導員の登録費は下げようとしている。開会式の前にでも立正大の講堂で会議する。最終的に詰めるのは、学連は 3 月に総会で、JOA の理事会は 5 月だから、5 月に承認されることになる。実際にはそれより前に競技者登録の所は動かなければいけないが。

山本：そういえば理事のことはこっち(学連)で決めないかね。

藤井：理事の規定は JOA でも変えないといけない。あと委員会も今考えている。各委員長の方に(学連から委員が)欲しいかどうか確認している。普及は西脇さんが今入っている。あとユニバーとかも考えると、フット O の強化委員会は入っていてほしい。あとはスキー O か。2019?年のユニバーでスキー O が採用されるらしい。ユニバーというのは日本の中では JOC の管轄。このユニバーは今までの個別のユニバーとは少し違う。スケートとかボブスレーとか色んな競技が開催されるユニバーシアードの総合大会の 1 種目としてスキー O が開催される。JOA としてはそこに学生がでてきてほしい。学連の方からも委員を出してほしいなあ。

山本：委員は来年からじゃなきゃいけないことはない？

藤井：うん。早い方がいいけれども。

フット、スキー、普及。この辺りは委員を出してほしい。理事は 1or2 人。そんな感じ。

JOA の中では理事は 2 年交代なので、学生からだちょっとめんどうかも。JOA としては構わないが。

山本：それは 5 月までに決めなきゃいけない？

藤井：委員会はまだでもいいかな。(働いてくれれば)後から承認でも構わない。実行部隊なので。でも理事の方は、5 月に JOA で入会が承認されたら 6 月の JOA の総会では理事を認めてもらわないといけない。我々としてもそれまでに理事の選考規定を決めておかなければいけないけれど。学連側が継続的に出せそうな人数を決めてほしい。一度人数を決めたらその人数は毎年変えてほしくない。

山本：そういえば定款読んで気づいたんですけど、正会員って団体じゃなくて団体の代表である個人なんですか？

藤井：社団法人法かなんかで、団体じゃなくて個人が会員になるんだよね。

山本：学連が入る時は会長になる？

藤井：正会員としては河合さんになる。でも実質動くのは会長じゃなくてもいい。

藤井：議論はあったけどね。やっぱり個人が会員らしい。

藤井：これで大体競技者登録のフローを決めて、なんか細かいところで問題があったらそのときに対応しましょう。

藤井：学連が加盟員の情報を JOA に提供して JOA が番号を付ける。JOA は都道府県協会まではその情報を流す。

藤井：加盟員の所属都道府県については、必ず JOA に情報提供。チェックボックス付きだけど住所とかメールアドレスも。

山田(晋)：あれのときはどうなってるんですかね。日本学連の加盟校が主催している公認大会。あれは競技者登録してなくてもでられるってなってますけど、どう処理してたんですか？

藤井：これからはいらなくなる話だけど。JOA のランキングの対象にはならないけど、お金は取らないで一時登録扱いしてたのかもしれない。ちゃんと登録すればそういうのも解決する。

藤井：こんなところでいいかな。細かいところはメールでやり取りしながら、大きなところはこれで進めましょう。学連の中で事務手続きの確認はしといてね。



## 2013年度日本学連会計中間報告

## 収入項目

加盟金		予算
個人	3,378,100	2,700,000
加盟校	144,000	120,000
準加盟校	14,000	15,000
賛助金		
賛助金	116,000	200,000
販売収入		
地図	500,000	1,300,000
事業収入		
ICM&R2012黒字返金	2,363,260	1,500,000
その他		
利息	438	

計 6,515,798

## 2013年度日本学連会計 山田陽子

2014/1/18

## 支出項目

貸付金		予算
ICM&R2013貸付金	1,500,000	1,500,000
部局活動費		
広報部	0	5,000
事業部	0	150,000
事務局	19,930	50,000
普及部	0	20,000
渉外部	23,460	200,000
幹事会役員活動費		
幹事会交通費	282,578	500,000
幹事会宿泊費	199,380	300,000
総会・幹事会会場費	10,860	
事務局維持費		
家賃		715,000
光熱費	25,281	100,000
電話代	28,714	
その他		20,000
地区学連へのフィードバック	32,000	
資料印刷費	900	
手数料	2,470	
税金	35	
地図代	1,257,100	
インカレ広告費	20,000	

計 3,402,708

## 日本学生オリエンテーリング連盟個人情報保護理念

本連盟は、加盟員およびオリエンテーリング愛好者の個人情報の適切な保護と利用を図るため、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）を遵守するとともに、個人情報の機密性・正確性の確保に努めます。また、本連盟地区学連に対し、この理念に添う個人情報の取扱いを要請します。

2013年10月4日

日本学生オリエンテーリング連盟

### 1. 個人情報とは

特定の個人を識別できる情報で本連盟の場合「住所、氏名、性別、年齢、生年月日、電話番号、E-mailアドレス、学連登録番号、所属大学、所属クラブ等」をいいます。

### 2. 個人情報の取得と本人の同意について

あらかじめ利用の目的を明確にして個人情報の取得をします。この場合、個人情報は本人の同意をもとに取得します。

### 3. 個人情報の利用目的について

本連盟は、個人情報の提供者との信頼関係の維持を第一義とします。個人情報の利用は、規約に定められた学生競技者精神を守り、学生界におけるオリエンテーリングの普及、発展に寄与することならびにオリエンティア・賛助会員への広報・サービス提供に利用し、このほかの目的に個人情報を利用することはありません。また、法令等により開示が求められた場合等を除き、個人情報を第三者に開示することはありません。具体的な利用範囲を次に示します。

(1) 加盟校・準加盟校ならびに賛助会員維持業務のため

(2) 本連盟主催大会・日本学生オリエンテーリング連盟選手権大会を円滑に遂行するため

(3) 学連登録状況、エリート・クラス出場資格者の開示・公表のため

(4) 事業の遂行と円滑な業務遂行ならびにオリエンティア・賛助会員への広報・サービス提供のため

### 4. 個人情報の管理について

本連盟が取得した個人情報はその利用目的達成のために正確かつ最新のデータ内容の維持に努めます。

5. 個人情報の開示・訂正・利用停止について

- (1) 請求者がご本人であることを確認の上遅滞なく対処します。
- (2) 個人情報の開示・訂正・利用停止等が必要な場合は、下記本連盟事務局に連絡してください。

6. 個人情報の安全管理について

本連盟は各位の個人情報の漏洩、紛失等を防止するための措置を講じます。

7. 個人情報保護に関する質問・苦情・異議の申し立てについて

本連盟は、個人情報の取扱いに係る各位からの苦情処理に適切に取組みます。ご質問・苦情等につきましては下記までご連絡ください。

個人情報に関する相談窓口

【日本学生オリエンテーリング連盟】

〒112-0014

東京都文京区関口3-18-2 目白台芙蓉ハイム104

E-mail: uofj-j ( アットマーク ) orienteering.com

## 2013年度 春インカレについてのご報告（その2）

今年度の春インカレについて、下記の通りご報告致します。ご意見・ご質問等あれば  
よろしくお願ひします。

## 【1】学生へのアンケート結果と対応について

（一般リレー1走の並び順、インフォメーションデスクでの配布物）

先日の第2回幹事会の後、「2012年度春インカレの将来への提言」に関するアンケートを  
実施して頂きました。その結果と、インカレ実行委員会としての対応をご報告致します。

**<質問1> インカレリレー一般クラスの整列順について、どのように整列順を決めるのが公平である、もしくは好ましいか。**

集計結果は右記の通りです。  
学校間の公平性や運営上の労力などを考慮した結果、「各校第1チームのみ最前列（第2チーム以降は学校コード順）」の方式を採用します。

抽選で決める	8票
実行委員会に一任	4票
従来通り	2票
学校ごとに縦に整列	2票
第1チームのみ最前列	2票
前年度順位による	1票

**<質問2> ミドルの夜のインフォメーションデスクでの ①ミドルラップ成績表、②リレー選手権の部オーダー表一覧、③リレーで使われるコントロール位置説明表の配布は必要か？**

集計結果は下記の通りです。今年度については3点ともインフォメーションデスクでは配布せず、参加者に向けては次の方法で公開します。

またこれに伴い、ミドル夜のインフォメーションデスク自体を設置しないこととします。インカレ当日の問い合わせ方法については、要項3で公開します。

## ①ミドルラップ成績表 &amp; ②リレー選手権の部オーダー表一覧

公式 Web サイトへ掲載（紙での配布は行わない）。ミラーサイトを設けることで、サーバーへのアクセス負荷対策とする。また、例年のインフォメーションデスク開設時刻である 20:00 までに両情報を掲載する。

## ③リレーで使われるコントロール位置説明表

ミドル後の代表者ミーティングで配布する。

	①ラップ表	②オーダー表	③デフー覧
必要	2	6	4
不要	18	14	16

## 【2】開会式スケジュールリングについて

今年度春インカレでは 3/7(金)の開会式の日インカレスプリントを実施する事が、10/12の日本学連総会にて決議されています。開会式の日には、従来のモデルイベント・開会式に合わせてインカレスプリントを行う予定ですので、例年とはスケジュールを変更して行わざるをえません。

実行委員会側でスケジュールリング案を作成しましたので、検討をお願いします。

## &lt;開会式案&gt;

8:30	モデルイベント、インカレトレイル受付開始
11:00	モデルイベント、インカレトレイル受付終了
12:00	モデルイベント、インカレトレイル競技終了
12:00～12:30	インカレスプリント 選手隔離
12:30～13:30	インカレスプリント競技
14:30～15:15	スタート抽選会 (45分)
15:15～15:45	開会式 (30分)
15:50～16:10	テクニカルミーティング (20分)
16:10～17:00	シード選手紹介、シード選手スタート抽選 (60分)
17:15～17:45	代表者ミーティング (30分)

## ※参考 (2012 年度スケジュール)

9:30～13:30	モデルイベント開設 所野コミュニティセンター
13:00	開会式会場 (日光総合会館) の開場
13:00～15:00	欠場者、オフィシャル、e-card 番号変更受付、配布物の配布
14:00～14:50	スタート抽選会 (50分)
15:00～15:30	開会式 (30分)
15:30～15:50	テクニカルミーティング (20分)
16:00～17:00	シード選手紹介、シード選手スタート抽選 (1時間)
17:15～17:45	代表者ミーティング (30分)

### 【3】 インカレスプリント詳細について

インカレスプリントの概案を下記のとおり山川さんより提示して頂いています。

<大会概要>

大会名	日本学生オリエンテーリング選手権大会スプリント種目部門実験大会 (略称：インカレスプリント実験大会)
主催	日本学生オリエンテーリング連盟
開催日	2014年3月7日(金) モデルイベント開催日
場所	栃木県矢板市内(春インカレ要項3と同時に発表)
クラス	男子選手権(ME)と女子選手権(WE)のみ
設定優勝時間	12分
最大出場選手数	ME 30名、WE 15名程度
選手選考方法	自己推薦による。参加強制はしない。 最大出場選手数になるよう選考委員が調整して決定する。
自己推薦対象 レース	過去1年のスプリントイベントにおける最高コースの実績。 最高コースの全参加者数に対して上位1/10に一度でも入れば資格ありとする。 ・1/10では想定出場人数に満たない、あるいは過剰となる場合は、 1/aのaの値を男女それぞれに前後させて再選考を行う。 ・同一基準で人数を絞りきれない場合は、1/aに入った回数とか、 他に同じ大学の選手がいないことを優先選考事項とする。
選考委員(予定)	山川克則、大西康平、石澤俊崇、山上大智、海老成直
参加費	無料

詳細については春インカレ要項3と同時、あるいは開会式の日の詳細部分だけは先行して公開する予定です。

#### 【4】 インカレ実行委員会印について

##### ① 背景

2012 年度に学連事務局が水没した際、インカレ実行委員会印が紛失致しました。紛失するまではロング・ミドル問わず、インカレの賞状全てに押印されており、本来、インカレ実行委員会印が押されていない賞状は、正式文書として認識されません。

一方、今回の ICM2013 の覇者はユニバー代表に内定することが決まっており、彼らが各々の大学に賞状を提出する可能性も考慮し、ICM2013 ではインカレ実行委員会印を押印した賞状を発行したいと考えております。

その為、インカレ実行委員会印を改めて作成し、その費用を学連に支出して頂きたいため、今回の幹事会議題に提出致しました。

##### ② 学連会計から支出して頂きたい理由

年間3 インカレ(ロング・ミドル・リレー)で継続的に使用するものであるため、ICM2013 の会計から出すのは適切ではないと考えております。

##### ③ 予算

以下の Web サイトで見積もったところ、少々上等な柘材で注文した場合でも、5,000 円以下で収まる見込みです。

(参考：<http://www.inkan-honpo.com/houjinin-teborishiage-kakuin.html>)

以 上

「インカレスプリント実験大会および今後の展望について」 資料

「インカレスプリント実験大会および今後の展望について」に関する資料は以下の通りです。

【資料一覧】

- 「インカレスプリント実験大会および今後の展望について」
- 想定Q&A（11/30 J O A スプリントフォーラムでも提示）様式1\_\_事業計画書
- 参考：昨年10月総会で提出したもの



## 日本学生オリエンテーリング選手権大会スプリント種目部門実験大会 要綱

(略称：インカレスプリント／実験大会)

テーマ：競技スポーツとしてオリエンテーリングでの世界最高の舞台である世界選手権（WOC）に日本から出場できる選手枠に従来とは大幅な変更が成された。オリエンテーリングは欧州が本場で日本は中堅国（やや下層）しかしアジア圏ではトップリーダーの役割を期待されているが、実質上ロングとミドルは国代表の1名のみ、代表を複数（3名）送り込める種目はスプリント種目のみとなった。他にリレー競技でも複数の選手は送り込める。しかしわが国において今までのスプリントの取組は他の競技のついでに、という扱いであり、インカレにおいても4年前に競技規則提示までしておきながら、組織決定としてインカレスプリントの開催を否決した歴史もある。否決した理由は、そこまでモチベーションがない、マーケット（≒採算性）がない、というものであった。しかし世界の（WOCの）この体制変更は、大方の若い選手の供給元である日本学連として、正規のキャリアアップの仕組みをいまだ持っていないというのは、いわば不作為の組織責任であるといえ、正統な仕組みの創出は急務である。そこで、過去の否決の理由を今一度洗い直し、どのような形でやっていけばモチベーションが保て、また持続可能な方法であるのか実験イベントを行うことを日本学連幹事会で提案し、総会で説明を行った。

実験イベントはこれ1回のつもりで、次回は本大会としての稼動を考えている。それには3月の総会での決議が必要であるが、他のインカレ種目と同様インカレである以上、学連に関わるものはお客さんでなく、自分達も「主催者」である理念が必要である。この実験大会は“実験”であり、できること・無理無茶なことを見極める場でもある。提案者周辺のマンパワーも極めて限られた中での実験になる。その上で、**must**なことをしっかりと認識し、どういうことならやっていけるのかを皆で考える場にしたい。

(提案責任者：日本学連副会長 山川克則)

大会名：日本学生オリエンテーリング選手権大会スプリント種目部門実験大会

(略称：インカレスプリント実験大会)

主催：日本学生オリエンテーリング連盟

開催日：2014年3月7日（金）春インカレモデルイベント、開会式、協賛トレイルと同じ日

場所：栃木県矢板市内（春インカレ要綱3と同時に発表）

クラス：男子選手権（ME）と女子選手権（WE）のみ

設定優勝時間：12分

出場選手数：ME 30名、WE 15名程度

選手選考方法：自己推薦による、無理な日程をやりくりしての開催なので有力選手であっても参加強制はしない。あくまでも自らの希望よっての参加となる。（不参加であっても非難とかはしないが、どのようなやり方が最適なのか、日本学連の構成員のひとりとしてよく考え、その考えを伝えて欲しい）

上記人数をなるべく選考委員が調整して決定する。自己推薦に当たっては、過去1年以内のスプリントイベントにおける最高クラス（コース）の実績を申告する。JOA公認・非公認の種別は問わなく、何らかの形でwebに成績が公開されているものを申告する。選考に当たっては以下をガイドラインとする。

- ・ 最高クラス（コース）の全参加者数に対して上位1/10に一度でも入れれば資格ありとする。
- ・ 1/10では想定出場人数に満たない、あるいは過剰となる場合は、1/aのaの値を男女それぞれに前後させて再選考を行う。
- ・ 同一基準で人数を絞りきれない場合は、1/aに入った回数とか、他に同じ大学の選手がいないことを優先選考事項とする。

選考委員（予定を含む）：山川克則、大西康平、石澤俊崇、山上大智、海老成直

参加費：無料 大会開催予算は日本学連幹事会決済可能枠で執行し、不足分は賞品とともに協賛会社から支弁して行う。

協賛：(有) ヤマカワオーエンタープライズ 他に追加予定

申込方法：所定のフォーマットで 2/9 のイベント会場（山リハ）にて出場希望本人が直接書面で山川まで提出する。2/9 のイベントに参加できない場合は、メールでの提出も可とする。

優勝賞品：O シューズ（いわゆる“ヒモ付き”ではありません。自分の好きなOシューズ（もしくはランシューズ）を好きなメーカー・代理店から買うスポンサーとなります。（写真だけ撮らせていただきますが、それ以上の duty は求めません）2位～6位にも何らかのオリエンテーリンググッズ（順位により 8000 円＞2000 円相当品）を進呈します。）+優勝者には以降 2 年間の YMOE 社が行う個人種目のイベントの参加費を免除します。

大会の流れ（3月7日）＜予定＞

協賛トレイル・モデルイベント 8:30～12:00（受付終了：11:00）

インカレスプリント出場選手隔離（特殊コース設定） 12:00～12:30

スプリント競技 12:30～13:30

春インカレ開会式および関連イベント 14:30～17:00

スプリント競技について

- ・ スタート間隔は 1 分毎、ME から先に競技し、ME の最終ランナーの 3～5 分後から WE のスタートが始まります。
- ・ 今回提供するのは、純なスプリント競技であり、パーク O とは少し違います。常設の構造物や臨時に設営した通過禁止の特徴物を厳しいルールを遵守しながら超高速で方向感覚とルートチョイスを問う競技となります。厳しいルールに対しては、衆人環視の目があるということで、遵守を厳格に問います。＜参考文献：全日本スプリント [http://shigaorien.nomaki.jp/me\\_analysis.pdf](http://shigaorien.nomaki.jp/me_analysis.pdf)>

地図：縮尺 1:4,000 等高線間隔 2m 走行可能度 4 段階+通行禁止の濃い緑

前走：谷川友太、松澤俊行、田島利佳各氏を予定

演出：1 時間のスポーツライブショーのつもりで全体を構成します。但し実験イベントであり、マンパワーも限られていますので、やれることに限度があることはお許し下さい。また、解説付き観戦ガイド（無料）を配布しますので各所での肝となる競技ポイントを観戦と同時に、選手がルール遵守で競技を行っているか監視していただきたいと考えています。また、本競技立ち上げに向けてできること、できないこと、やったほうがよいことなど見極めの場として今後の議論に積極的に参加して下さい。

展望：インカレスプリントの本競技立ち上げを、3/10 の総会で話し合っ、10/11 福井でのインカレロングの前日に行いたいと考えています。過去にインカレスプリント単独での遠征はできないという議論もありましたので、ロング前日開催が良いのか、ミドル前日開催が良いのかは、後の議論に委ねたいと考えていますが、組織としての仕組みの創出は急務であるという認識で日本学連加盟員つまり主催者である、という意識で考えていただきたいと思っています。また、モチベーションアップのために当面他の種目より豪華な賞品提供をつづけていけるべく、スポンサー企業の獲得をめざしたいと思っています。

学連資料：「インカレスプリント」について

(参考流用：11月30日開催：スプリントフォーラム)

文責：山川克則（日本学連副会長・YMOE 社代表）

10月12日（インカレロング前日）開催の日本学連総会で、インカレスプリントの実験大会開催の決議をいただきましたが、その際に幹事長に説明していただきましたが、一般加盟員向けにもう少し判りやすく解説したと思います。こういう文書を広報するのも、今まで意義の部分で、いかに浸透が図られていなかったかという反省もあり、広報に載せるものです。また、11月30日に開催される全日本スプリント後のスプリントフォーラムでの参考資料としても提示します。

話を判りやすくするために、Q&A方式で語り口調で説明したいと思います。

Q:そもそもなぜインカレスプリントなんですか？ JOAのwebにも、世界で種目ごとのフォーマットが変わったから、という説明がされていますが、それとは具体的にどういう関係があるのですか？

A(山川):簡単に言えば、世界のフォーマットの変更というのは、日本のような中の下クラスの国では、世界の舞台に複数の代表選手を複数送り込めるのは、事実上今後スプリントとリレーだけになるということです。ミドルとロングは中の下以下の国では1国1人しか代表を出せない(世界的には、ランキングとか他の指標で選出、強い国の代表選手が大きく制限されることが改善?)ということになります。詳しくはJOAのwebをみていただくとして、今後有望な選手が出てきても、世界の壁の感じ方、対策の仕方が変わるということです。

ミドルはオリエンテーリングの内容的にはリレーに通じる部分がありますが、個人種目で世界の舞台に複数の選手が挑戦できるのは今後スプリントのみ、では国の組織として、今後どういう対策をとるのか、ということが問われているということです。(なので、このようなスプリントフォーラムという集まりも開催されているわけです)

Q:学連は4年前にインカレスプリントの開催を否決していますよね？

A(山川):そうです。今年で全日本スプリントは6回目、第1回の時(千葉県開催)に試行大会として併催して頂きました。その後規則も個人3種目全部を規則整備して、会議にかけましたが、スプリントをインカレとして開催するには値しないと当時の会議で組織決定をしているのです。第2回の新潟での全日本スプリントでは、「学生の部」として、将来機が熟した時に移行できるようにと灯だけは残した形式で開催は維持し、その後も主管県に併催をお願いしていくという立場をとりました。で、結局学連としては、スプリントに関しては正当な(正統な)キャリアアップのシステム作りしなかったということになりますね。それが今度の世界のフォーマット改正で、問題になっている。つまりスプリントしか世界に複数選手を送り出せる種目が実質上なくなってしまったのに、(若い選手の大きな供給元である)学連は正当なキャリアアップの回路をもっていない。そして4年前に一旦放棄してしまった。これについて、この機会にもう一度考え直そうよ、ということなのです。事態は不作為(問題がわかっている、知らんぷりして見過ごすこと)にも組織には責任が問われる事態なのではないか、こういう考えがあって、そもそも他のことでも忙しいのに、あえてスプリントについて口に出し、まずは実験大会でやってみようということなのです。

Q:否決したことを非難して、反動的な動きをとるということではなくて、なぜスプリントのインカレ開催が否決されたのかを、もう一度しっかりと考える必要がありそうですね？

A(山川):その通りです。世界の発表からすぐに今年度の幹事会で議題として扱ってきましたが、まさにこの点から議論をし直しています。

- ・ スプリントだけで遠征はできない
- ・ そもそも大会多すぎ
- ・ 手軽に行える種目ではあるが、これを真剣に一正式種目として真剣に取り組むどうかはまだ怪しい
- ・ なので、インカレ設計の基本としてある参加費収入で大会の経営が成り立つのかも怪しい

議論のポイントは“強いモチベーション”を持てるかどうかにかき集約されました。そして、今の全日本乗っかってほしい形式も、実質が(特に女性)で伴っておらず逆に迷惑をかけてしまっている状況(特に昨年の三重)で強いモチベーションが無いのなら、こういうやり方も意味無いよね。ということになりました。今回の滋賀では、学生別枠の募集は、二重のルールも運営的にはすごく繁雑でマンパワーがないことからやめにして、双方の事情を知る YMOE 社が特別にA決勝進出した学生を表彰するというにしました。今後、また事態が大きく変わらなければ、全日本にくっつくということはありません。インカレはインカレとして、どうやったら本当に世界にキャリアアップしていくことができるインカレスプリントを開催していけるか？ そのあり方を、モチベーションのこと含めて考えていこうよ、ということになります。

Q:スプリントオリエンテーリングの特徴というか、まず関心をもってもらうための導入部の種目として説明も一回整理してもらえませんか？

A(山川):これはJOAの競技委員会の方からいただいた資料をそのまま載せましょう。

(以下JOA競技委員)一番のポイントは、オリエンテーリングの基本的な技術要素である

- ・ ルート選択とナビゲーション

を、スプリントでどのように捉えるかになります。

スプリントの基準として掲げられている

- ・コントロールは技術的に容易
- ・走行は非常に高速で、
- ・難しいルート選択で、
- ・高い集中力を要求

を見れば分かるように、ナビゲーションを問うのではなく、ルート選択に伴う判断に重点を置いているのは明らかです。時間があればすべて容易なことでも、高速になるために難しくなり、高い集中力が必要になる、それでもそれを高速でこなすことを求めるというのがベースになります。

もちろんナビゲーションでも課題がありますが、それは特にトップクラスの人になれば、行けるか行けないかとか、迷わないでというレベルのものではなく、ミクロなルートチョイス（ショートカットや通りやすいところを通るなど）が要素として大きいです。そのために、地図が正確であることが求められます。地図から読み取れない要素で「結果的に」差が付いたというようなことは公平性の観点からも一番排除したことです。

スピードが出せない斜面などのある場所は、スプリントに適さないとまで書かれています。

（以下山川）他の種目についても簡単に要約すると

ロング “森の王者” という称号が本場でも与えられる。

ミドル ナビゲーションの王者

ということで、ロングやミドルで芽が出なくてもスプリントで開花する選手もいるだろうねということも想定していますね。

Q：で具体的にスプリントの実験大会を開催するにあたって、上記のようなマイナス面をどのように克服しているアイデアなのですか？

A（山川）：それだけでも遠征を強いる、参加費で支弁する大会構成、この2つを否定してかかってみたいと思います。その上で、どれくらいモチベーションアップを図れるか、それこそが“実験”になります。まずは今後一番大きな人数が集まるインカレミドル&リレーの日のモデルイベント&開会式の日に実験イベントを行う、しかも参加費は徴収しないで、学連（決済組織は幹事会裁量認められる範囲で）予算で開催する。このことが、先日の総会で決議いただいた部分です。学連全体として、意味あるイベントでなければいけないので、他のことのついでというわけにはいきません。具体的には、モデルイベントの開設時間とか、開会式のリハーサル（特にシード選手紹介イベントの練習）の時間を削って学連全体として取り組む実験イベントということになります。但し、ミドル前日に行くというのが、そもそも強行軍でもありますので、これはあくまでも実験でそのことで学連という組織として今後どう考えるかということとを皆で考えるイベントにしたいと緒見ます。なので、選手出場の強要はしませんので、コンディショニングの観点から参加を見送る選手がでてきてもそれは批判されない。但し、ほかの事をするのはダメなので、スプリント実験イベント開催中は、学連のものは、そのことだけに集中する（つまり観戦する）ということになります。また参加費収入に頼って一般参加を認めるということは、ルール遵守も問題にも突き当たるのですが、そのことも議論しだすと長くなるのでここでは、観客もルール遵守の見張人である、そういう発想で大会をやってみたいと思います。

Q：具体的にはどのようなものになりますか？

A（山川）：一時間のスポーツ生中継ショーのイメージです。レースは一本勝負。男子30名女子15名、スタートは1分間隔、ウィニング12分、出場者は自己推薦で私を含めた主催者で選抜、基準は、公認・非公認問わず（但し記録がwebに公開されていること）、最高クラスで男子上位1/20、女子上位1/10に入っていることを基準により上位と思われるものから選考、同一レベルなら選手を輩出していない大学のものをより採用、微妙な場合はそれに準じる成績も評価、複数の推薦ネタがあるほうがより有利・・・

こんなことを考えています。ブリテンは1月幹事会を経て正式決定して出しますが、出場する意欲のあるものは大体このような基準で考えておいて下さい。

Q：モチベーションという点ではどうですか？

A（山川）：わざわざ遠征、短い距離にこの参加費は高すぎ、その2つの障壁は主催者の方で排除しました。あとは、どれだけ皆の代表で、皆が見ている中で、皆が応援している中でどれだけの名誉を感じて走ることができるかということになります。それに応じてご褒美も大きなものを用意したいと思います。チャンピオンには、まず手始めに、この考えを主導しているYMOE社・社長もポケットマネーから、紐付き無しで、希望のシューズの購入資金をプレゼントしたいと考えています。（メーカを自由に選べるが、モノで提供するという形）2位、3位の人にも、他の大会には無い豪華なオリエンテーリングに関係する用具等のプレゼントをししたいと考えています。加えて、チャンピオンでいる間は、YMOE社のスプリントイベントはすべて無料招待（他の大会主催者にも同様な措置を呼びかけたい）などを考えています。またインカレスプリントが本稼動した暁には、もっと大きなスポンサーについていただき、もっと大きなご褒美を用意していただく予定です。

Q：実験大会ということですが、次はもう本大会を考えているということですか？

A（山川）：はい不作為の責任は大きいと考えていますので、組織としては開催可能、持続可能な範囲で実験結果をみて再考察を加えたあと即本大会（正式なインカレスプリント）の開催を検討したいと考えています。具体的には、ミドル前日に開催するのは無茶承知なので、インカレロング前日がそれに適していると考えています。

2013.10.12

日本学連 2013 年度秋総会 議案資料

作成：山川克則（副会長・YMOE 社）

案件名：スプリントインカレ（実験大会）について

事業内容：（内容は後述するが）一言で言うと、今年の春インカレの例年モデル・開会式が開催される金曜日にさらに 1 レースウィニング 12 分の決勝のみの一本勝負でスプリントインカレの実験大会を開催する是非について討議をお願いしたいということ

発端：

いうまでもないことだが、日本学生オリエンテーリング連盟というからには、オリエンテーリングの種目すべてを取り扱う唯一の学生統括の全国団体ということになるが、その範疇は、主に foot オリエンテーリングのことを扱っている。（他に、スキー O、トレイル O、MTB-O があるがこれらのことは主としては学連では扱っていないし、扱いきれない、唯一現在あるのが“インカレ協賛大会”として、日本トレイル O 協会が主導してインカレ前日に行っている程度で、つまりは日本全体の団体に学生含めて活動は任されているし、活動規模もそのレベルのものである。ちなみに、“今年のインカレ協賛トレイル”も昨年に続き春インカレの方での開催になる。）でもって日本学連が主に扱うオリエンテーリングは foot オリエンテーリングということになるが、この競技にも 4 種目（ロング、ミドル、スプリント、リレー）である。このうち、スプリントについて来年より世界のフォーマットが大きく変わる。このことについて、日本の競技統括団体として、何らかの対応を迫られるわけだが、これまでの学連として、その組織内の最高の競技パフォーマンス発揮の場としてインカレスプリントの扱いについての経緯もあるので、今までの取り組みを見直して、自分達にいったい何が今の環境下でできるのか、それを根本から考え直してみることもからもう一度始めなおしてみようということで、今回の実験大会を提案している。

尚、世界のオリエンテーリング種目のフォーマットの大きな変革は JOA（日本オリエンテーリング協会）の以下の web ページで解説されているので、総会から帰ったら一度ちゃんと読んでおいてもらいたい。

<http://www.orienteering.or.jp/NT/>

[http://www.orienteering.or.jp/NT/news/2013/0902\\_post\\_27.php](http://www.orienteering.or.jp/NT/news/2013/0902_post_27.php)

<http://www.orienteering.or.jp/archive/files/New-WOC-Format2.pdf>

[http://www.orienteering.or.jp/NT/news/2013/0909\\_2014.php](http://www.orienteering.or.jp/NT/news/2013/0909_2014.php)

特にスプリントについては、以下のように公開での説明と発言の機会があります。

<http://onoe.haniwa.co/Sprint-Forum.pdf>

要するに、選手選抜の形式が大きく変更され、まとまった人数（3 名）が参加できる種目は日本のような競技環境の場合、スプリントとリレーしかなくなるということ。それに加えて、スプリントの対策がこれまでちゃんとできていたかという、失格者が多発したり、基本的にその競技そのものの環境に対応できていなかったりと色々準備体勢にまで反省のコメントが出てくるようになり、日本国の組織としても、新たな対応策がすぐに必要になってきているということです。（短すぎて全部を言っていないかもしれませんがそれはご容赦）

学連としての種目対応のこれまでの経緯をざっと（詳しくは、活動報告書に掲載されている）

第 1 回～第 6 回：クラシックレース一本、団体戦は各校 3～5 名のタイムの合算

第 7 回（1984 年）～：日本学生オリエンテーリング連盟の正式発足と団体戦をリレーで日光で開催なので、学連にとって“日光”は聖地といわれている。

1992 年 インカレショート試行大会（馬籠）秋開催、予選・決勝方式

1993 年 インカレショート開始（伊那）秋開催、予選・決勝方式 そのごしばらく定着

2004 年 ショートをミドル改称、クラシックとロングと改称、ロングとミドルの開催記時期を秋開催と春開催で交換、この年から秋ロング（愛知の WOC テレイン）春ミドル（予選決勝公式、日光「不動の滝」の形式に。種目名称の変更は世界の流れに合わせた。

2009 年 ミドルの予選決勝公式を決勝一本に、予選決勝方式の運営負荷の大きさの問題の他に世界のミドルの基準に合わない短い時間の競技になっていたことを是正する意味もあった。

で、今回のフォーマットの改訂は、学連としてもスプリントの対応を今一度求められるものではないか、こうしてあげた変革と同レベルで扱わなければならない問題なのでないかということで議論に上げた。

学連としてのスプリントへの取り組みの経緯

（世界的には）オリエンテーリングの導入・基礎として、当初から公園や大学キャンパス内でのオリエンテーリングは（日本でも同様、大学クラブの創設時よりキャンパスマップはある）行われていたが、これも短

距離の一種目として扱うようになったのは 2000 年を過ぎたあたり、大縮尺の地図規定も制定され、世界レベルの競技としては「パークワールドツアー」として開始、日本にも来ている（立川の昭和記念公園）。その後パーク O から、スプリントと種目名を変更し（同時にミドル種目も増えた）世界でも、同日開催の予選決勝方式は、スプリントで開催されている。

学連としては、行事が多くなりすぎる、そんな短い競技に全国から選手がちゃんと集まるのかなど多くの懸念が当初からあり、その頃創設された全日本スプリントに加わる（お願いして混ぜていただく）形式が取られた。これは第 1 回の全日本スプリントの運営の中核に当時技術委員会でインカレスプリントの草案作りに加担していた吉村年史氏（現北九州 OLC、広島大 OB）もいたことで、インカレ競技規則の書き換え作業を行っていた前技術委員長西脇氏とともに主導された。それは、全日本の E 権とは別に学生の枠ルールを設定し、コースは同じ、全日本の決勝に漏れても、学生の決勝には残れる、逆の言い方をすれば学生の出場者には、全日本の E 権をももち、全日本と学生両方に出るものと、学生のみカテゴリで出場するものが混ざるといったものであった。第 1 回は、全日本は正式な全日本スプリント、学生はインカレスプリント試行大会、それでショートが辿った軌跡と同様第 2 回の全日本スプリントでインカレスプリントも正式発足ということで、規約準備なども進められていた。しかしながら、当初からあった懸念材料は何ひとつ解消されたわけではなく、第 2 回前の学連内議論で、スプリントは正式にインカレとするには、早計であるという結論になった。（ちなみに、これは総会で扱う前に幹事会議論で決しました。）しかしながら、今までの流れを止めてしまうのもそれは無い、ということで「学生の部」として続けることにした。

つまり、学連はこの時点で一度「インカレスプリント」開催を正式に「否決」したことになる。そのとき出た意見の懸念材料は、今と同様、

- ・ スプリントだけで遠征はできない
- ・ そもそも大会多すぎ
- ・ 手軽に行える種目ではあるが、これを真剣に一正式種目として真剣に取り組むどうかはまだ怪しい
- ・ なので、インカレ設計の基本としてある参加費収入で大会の経営が成り立つのかも怪しい

などでありました。

第 2 回は、この原稿を書いている山川が運営を引き受けていたので、お願いされるまでもなく、第 1 回で西脇・吉村が主導したフォーマットを引き継ぎ開催した。第 3 回以降は、このフォーマット（「学生の部」として別枠募集、二重登録での開催）のお願いを続けていくこととし、第 3 回での茨城では、幸いにして受け入れていただいた。これにはそもそも第 1 回全日本からの主催者の発想として、スプリント大会を引き受けるにあたって参加動員・大会の採算性からいって、学生の参加がなければそもそも日本全体でもスプリントの大規模大会の開催は厳しいという同様の懸念があって、合体すればお互いの目算が合うのではないかと、という面もあったのであるが、立場上は学連がお願いする立場、それにルールが二重で複雑なため、色々な問題も抱えていた。（高度な運営が必要／一般決勝に落ちても学生決勝に残れるとか、一般決勝に出た学生と学生決勝のみだったものを混ぜて、学生表彰を行うのだが、合体集計をミスったとか。）で、第 3 回（茨城）では、まだ学生の参加もある程度はあったが、大会主催者の経費はほぼ手弁当だったし（交通費も満足に出ない）、第 4 回（群馬）では学連からのお願いも通じなかった。第 5 回（三重）では、また学生の参加を期待して協議に入ったが、スプリントの単独開催では他の行事も続いていたこともあり、学生の参加は無残なもので、女子に関しては学生表彰を行うのもおこがまれる程の参加規模であり、学連としては大会主管者に大きく迷惑をかけてしまう結果となった（三重県協会からはメ切を延長してまでも名大や京大に依頼がいったのを覚えている方もまだ昨年のことなのでいるでしょう）。で、今年の第 6 回（滋賀）ですが、自分もコラボ大会して翌日大会を主導する立場も兼ねているので、学連としての例のお願いをしてみたのですが、同時に今までの問題点なども説明をしたわけですが、複雑な二重ルールをこなせるほどの運営体制ではなく、普通にワンフレームで予選・決勝を行うということになりました。意識ある大学生や中高生（今までその表彰もあったのでそのつもりでいた選手もいるだろうと・・・と思い）に対するケアという点で自分は食い下がり、ワンフレームの枠内で決勝にでた大学生・中高生は特別表彰する（スポンサーは YMOE 社がなる。まあ 2 万円程度の出費）ということで体制を収束しました。（滋賀の web ではまもなく要項が修正されます。）

- 第 1 回 2008 千葉 インカレは試行大会
- 第 2 回 2009 新潟(ジェネシス) インカレは否決、「学生の部」として全日本に混ざる  
改定インカレ規則に盛り込まれていたスプリントに関する文言はすべて削除して成立
- 第 3 回 2010 茨城 学生の部継続 学生表彰もまずは成立した
- 第 4 回 2011 (開催は 2012 年 3 月) 群馬 学生の部無し
- 第 5 回 2012 三重 学生の部復活 (要項草案に学生選手権とかかれていたので、文言の修正をお願いした。しかし学生の参加規模は惨憺たるもので、結果としてはかなり迷惑をかけてしまった)
- 第 6 回 2013 滋賀 学生の部は無いが、通常の決勝フレームの中で、学生生徒の特別表彰  
なので、曲がりなりにもインカレ代替であった「学生の部」という扱いでもなくなり、スプリントのイン

カレ（と呼ぶべき大会）は一旦消滅することになった。

（全日本のE権を取得しているもののみが出場できる大会なので、学連のフレームとは別枠の大会であるということ

尚、今後この学連としての「お願い」を、全日本スプリント主管者に対して続けていくかという問題だが、あとで展開するモチベーションという観点からも、三重から滋賀へのこの流れで一旦霧散させるのが適当だと思う。

あと三重でも、この二重ルールによる問題？も発生しています。東大の三谷君が予選で落ち、学生決勝にはギリギリ残ったが、決勝で快走、全体でも3位に入る成績だったが、全体3位の表彰はなく、学生1位の表彰のみとなった。

#### モチベーションが問題

で、話が今年の議論になります。世界のこの流れ（世界に複数の選手を送り込める種目が、日本のような実情の国では、実質スプリントとリレーしかなくなったということを目指します）に対応していくために、日本を代表する組織としてどう取り組んでいくべきかという議論です。先日の幹事会で少し突っ込んで議論しましたが、根本の議論としてモチベーションのないところに将来はない、ということが挙げられました。なので、全日本スプリントの主催者に対して、「学生の部」の設置のお願いをしていくという行為も、三重での実績の通りモチベーションを保ち得る方法ではなかったということで、このお願い行為を滋賀とのやりとりをきっかけに、今後はないことにしましょう。それに替わるモチベーションを保ちうる方法があるのならそれを模索しよう、ということで議論を進めていこう、ということになりました。

#### スプリントに対する日本選手の対応力の問題（ルール遵守の問題）

2-3年か前のWOC（世界選手権）のスプリントで日本選手の失格が相次ぎ、その準備ができていたかというところまで、反省点があとから挙がりました。日本での今までの開催実例をみても、失格行為に対する選手の心の準備という点では、結果としてちゃんとした準備・心積もりができていないということになります。事前に説明をうけて頭の中でわかっている、スプリントという高速でのレースの中で、反則行為を厳しく律しながらレースをするというのは余程の集中力を要することのようです。日本国内のレースでも、いくら注意しても実際のレースになると反則行為は多発しています。人を立てても青黄テープをかけても制御しきれないのでないということのようです。

スプリントはショーアップスポーツ、パークOはみんなのスポーツ、似ていて非なるものでは？

ルールを厳格に守らせるのなら、非常に高度で特別な集中力を要する種目である以上、監視をつけて今以上に厳しい環境下で競技を行うしか方法はないのかもしれない。選手には相当の精神的バイアスをかけることになる。そうすると、みんなのスポーツということ相容れなくなる。運営資源の問題もある。ということは、ショーアップスポーツである以上、参加費収入に頼る運営形態は実情に合っていないということになる。きちんとした訴求をして、スポンサーとか競技力向上のための補助金を使うとかそういう発想になる。

#### スプリントインカレ実験大会の概要

- ・ 決定自体は、幹事会決済枠の中で決定できる（地図作成：20万円、運営（プロ委託有志協力）20万円）で実行の決済は幹事会裁量で決済可能、そして幹事会では決済するという方向で現在すすめている。
- ・ 例年ミドル&リレーの開会式とモデルを行う金曜日に1時間ちょっと特別に時間をとって12分のレースを行う。参加費は無料（幹事会決済可能予算で実験イベントは実行可能）。
- ・ ウィニングは12分、男子40名女子20名程度を自己推薦で選出（実績記入）、人数で切るのではなく、運営可能な一定数の枠内で運営者が選出。
- ・ ミドルの前日ということで、調整に影響があると考えられる選手の出場までは強要しないし、回りから非難もされないという前提で進めたい。あくまでも、日本の将来を考えた上での実験イベント
- ・ その時だけの設定ルールというのもあり、予めそれは観客には公開される。またそこで観戦することによって、監視の環境ができる。

要するに論点は、みんなの代表、みんなが競技の詳細まで詳しく見ている・見られているという極度の緊張を強いた中で、いかに高速でのナビゲーション（そのナビは比較的簡単で、見るにも値するもの）のパフォーマンスを発揮できるか、それを実験しようとしている。したがって、その実験イベントの間は、毎年行っている金曜の行事を削って行うことになる。（具体的には、モデルの営業時間が例年より短くなり、シード選手紹介の練習とかに去年ほどの時間は割けないが、それでも実験イベントをやるかという問題になる。

考え方としては、過去の否決の歴史を引きずっている。否決した責任というのを感じている。

そして、今年世界のフォーマットが変わり、さらなるスプリントへの対応が求められている。

否決するにも、また何も扱わないで不作為でいるのにも責任が生じるという認識が今の世界の中での日本の位置づけであると思う。なので、このまま JOA のやることだけにのっかかるのか、学連としてインカレスプリントとしてできることがあるのか、あるいはどういう形なら開催可能なのかそれを確かめる実験であると言える。

で、今年の提案に戻ると、確かに今の枠組みの中でこのような実験大会を行うのも大変である。運営はインカレ実行委員会とは別途行うということでも、インカレのプログラムの流れというのがあるから、かなりの無理が伴う、それを押してでも開催する意義というのを学生に直接確認して欲しいという意見であった。つまり真剣にこの実験に向き合わなければ、ミドル&リレーの前日にはあるけれども、インカレの運営時間を削ってそういうイベントを行うだけの意味はないのではないかと、協力もしづらいというスタンスであった。なので総会で扱ってもらっている。

どのようにやっていけばモチベーションを持ちうるのか、そのような実験をしたい、なのでまだまだ色々な意見を吸収して行っていけたらいいなと思う。

スプリント競技の認識から一度リセットしてちゃんと学ぼう

地図の表現でプロは協力

競技形式は、実際にその姿を見てみた方々に依頼して、これが本当のスプリントだということを、一旦提示するような競技会にしたい。また、色々な人の意見を受け入れながら採用できるアイデアはさらに組み入れていきたい。

スプリント特有の変則的、あるいは厳格なルール遵守に関しては、観客を活用して、観客には予めネタばらししておき、その上で観戦してもらおうということを考えている。変則的な物体については、その時臨時に作成されるものも含む。

ショーアップも現状のマンパワーでできる限りのことをしたい。(プロ活用) ちょうど 1 時間の TV のスポーツ中継をライブで見ているような感覚のイベントをやってみて、その舞台上上がる選手のモチベーションというところから議論したい。

最後に

ことスプリントに関しては、日本協会も今までの経緯・反省から今後新たな取り組みを開始すると聞いている。日本の環境の場合、スプリントに適した環境で競技可能な場所となると、まず大学キャンパスということになるという見解もある。学連の取り組みとも連携した関係というのが、今後も大きく議論の俎上に上がってくるだろう。否決の責任、不作為の責任ということも考えて、まずはこの実験イベントに取り組んでみてはと思うし、何もやらない段階で、モチベーションが無いから、低いからということで、結論を出してしまうことの後世へ責任ということまで考えを及ばせて欲しい 1-2 いと希望する。